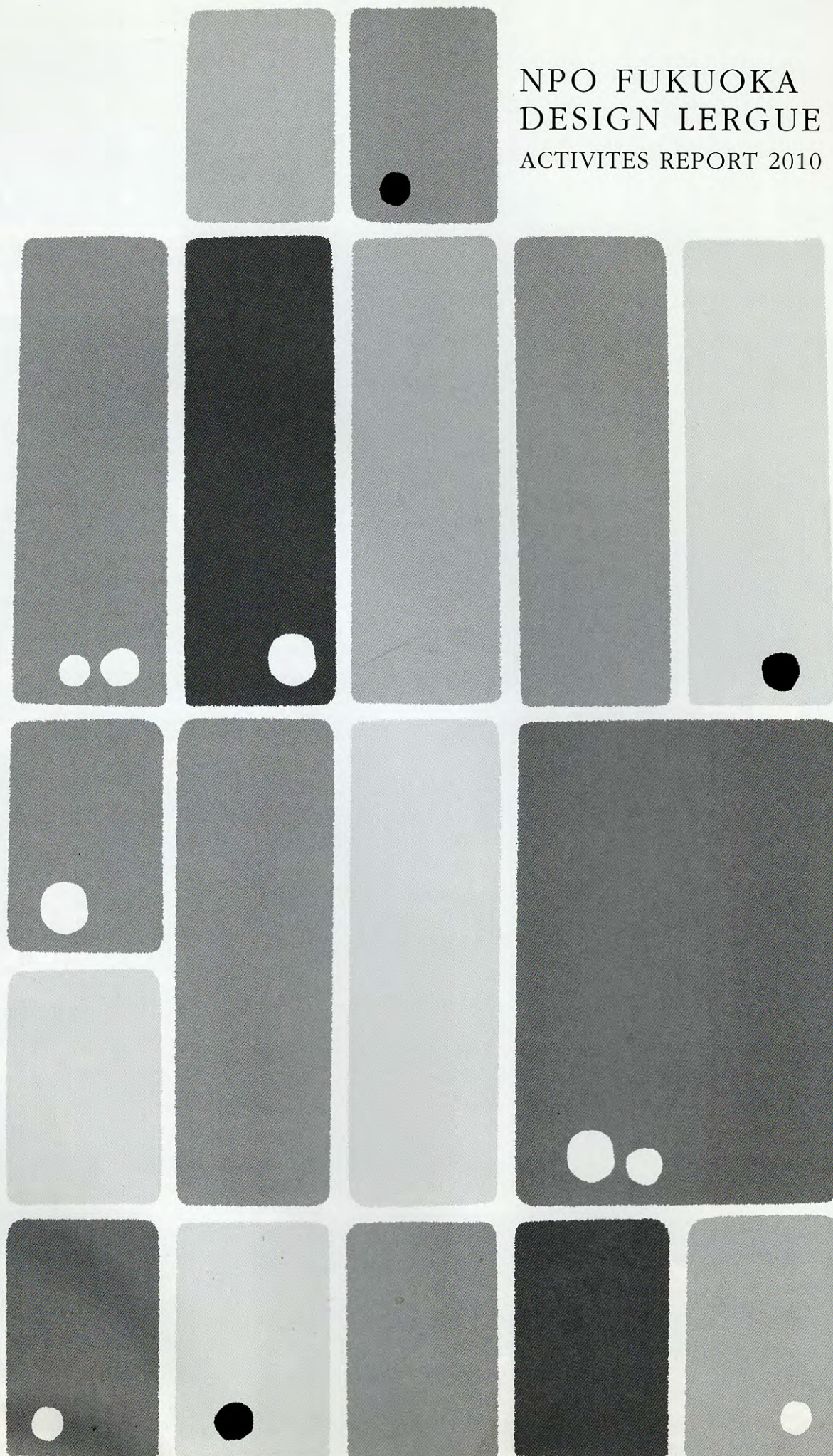
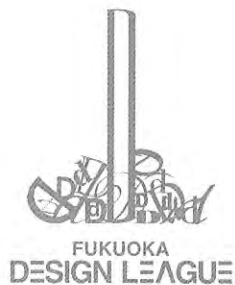


NPO FUKUOKA
DESIGN LERGUE
ACTIVITES REPORT 2010





NPO FUKUOKAデザインリーグ 2010 プロジェクト

パブリックプロジェクト Public

- 01 ユニバーサルキャンプ in 九州 03p
- 02 タウンモビリティマップ(バリアフリー情報地図) 04p
- 03 ときめきフェスタ 04p
- 04 デザインカフェ 05p
- 05 福岡景観・歴史発掘ガイドツアー(平成21年度福岡市共働事業提案制度採択) 06p

教育プロジェクト Education

- 06 デザインスクールキャラバン 07p
- 07 デザインインターンシップ 09p
- 08 第7回アジアデザインビジネスセミナー 10p

サポートプロジェクト(受託) Support

- 09 「ユニバーサルシティ福岡」の実現に向けた準備 10p
- 10 福岡市デザイン啓発・広報事業 11p
- 11 平成22年度福岡市都市景観賞運営その他 12p
- 12 釜山国際建築文化展出展 13p

交流プロジェクト Exchange

- 13 第13回 FUKUOKAデザイン界合同大望年会2010 14p
- 14 釜山デザインセンター視察 15p
- 15 バルセロナ経済交流可能性調査ミッション 15p

広報・総務プロジェクト Publicity/General Affairs

- 16 ホームページ運営 16p
- 17 九州アジアデザイン連携協議会 16p

NPO FUKUOKA デザインリーグとは

FUKUOKAデザインリーグは福岡市のデザインセンター構想をベースに、1996年に任意団体として発足しました。その後福岡市経済産業局内に事務局をおき、「デザインによる経済振興」を主な目的としてさまざまな活動が続けてきましたが、「デザインを経済のためだけでなく、社会の成熟のために活用する」という大きな使命のもと、2008年に特定非営利活動法人として再スタートしました。世界はいま環境問題やエネルギー問題など、さまざまな課題を抱えています。そして20世紀初頭にバウハウスでスタートした近代デザインは、「美の提供」から「問題の解決」へと、その能力を大きく進化させてきました。デザインはいまこそその力を企業や経済のためだけではなく、社会のため、市民のために活用しなければなりません。FUKUOKAデザインリーグでは、一人のデザイナーでは対応できない社会の大きな課題に対して、あらゆるデザイン領域を統合したトータルな力で、「市民が豊かに暮らせる社会（デザイン都市）」の実現を目指します。

NPO・FUKUOKAデザインリーグの活動目的

デザイン
に よ る
社 会 貢 献

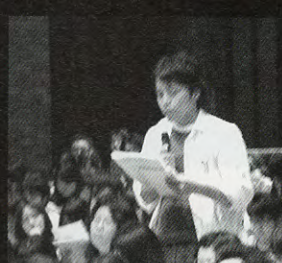
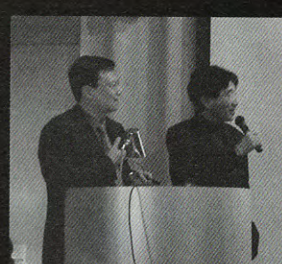
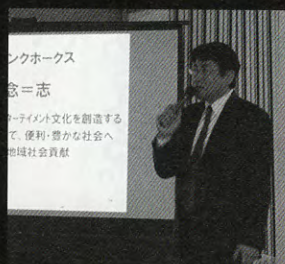
デザイン
に よ る
経 済 振 興

産・官・学・民の連携により

【デザイン都市】

の実現を目指します。

【デザイン都市】=市民が豊かに暮らせる社会



ともに過ごすから、楽しい。
ともに作るから、分かりあえる。

01

ユニバーサルキャンプ in 九州

◎開催日時／11月6日〔土〕ー7日〔日〕
◎開催場所／海の中道海浜公園 デイキャンプ場

元々はZPOユニバーサルイベント協会という団体が毎年八丈島で行っている「ユニバーサルキャンプ」の九州版を開催したいということで、3年前から始まったプロジェクトです。

一番の目的は、「キャンプ」という少し不便な環境の中で、障害のあるなし、老若男女に関わらず、すべての人がお互いの違いや多様性を知り、理解し合うこと。「みんなが一緒に生き活きと暮らせる社会」「多様性を受け入れる社会」を創って行くことを目指します。

第1回目は博多湾に浮かぶ能古島で行われましたが、2回目からは海の中道海浜公園で開催しています。

今回の参加者は46名。開催するにあたり、まず事前UD研修として車椅子や視覚障がい、盲ろうの疑似体験を行いました。

キャンプ当日は、まず1日目に京都の染物作家さんの指導による染物体験や、ユニキャン一番のイベントである「ダイバーシティーコミュニケーション」を行いました。ダイバーシティーコミュニケーションでは「音の部屋」「光の部屋」「風の部屋」「知の部屋」という4つの部屋を設け、それぞれ聴覚障がい者や視覚障がい者、肢体障がい者、外国人のプレゼンターを中心にゲームや対話を楽しみました。夜はキャンプ恒例のバーベキューですが、この食事の準備も昼間に学んだコミュニケーションの方法を使ってみんなが協力し、分担して行います。食事



の時は学生チームが中心となって創ってくれた灯明や、モンゴルの方の演奏を楽しみました。

2日間で感じたことや気付いたことをみんなで話し合う「振り返り」を最後に行い、無事にキャンプを終えました。

担当者感想

「ユニバーサルキャンプ in 九州」も3回目となり、内容も充実してきました。我々が障がい者の方のために行うキャンプではなく、共に準備をし、共に楽しむキャンプになつてきたように思います。

担当者代表 梅本 幸治



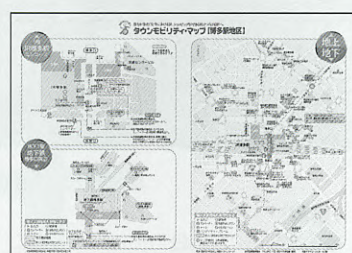
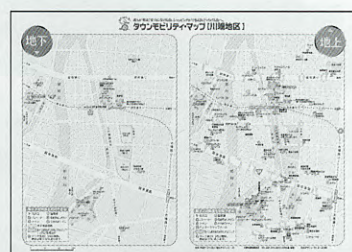
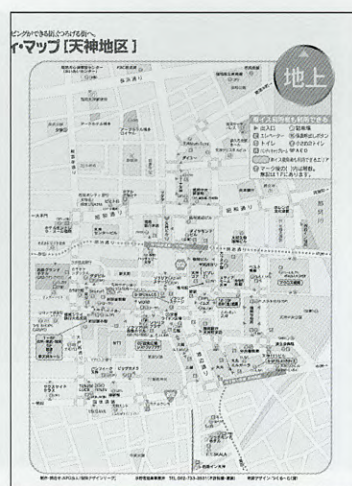
マップの精度を高めました。

過去に作成したタウンモビリティマップ(バリアフリー情報地図)の改訂のために、各エリアを調査して廻り、修正情報をもとにマップの改訂を行いました。

担当者感想

毎年、調査するたびに少しずつではあるが、まちが変わっていくのがわかります。この活動をもっと有効に活用するため、次の行動も考えなければいけないと思います。

担当者代表 水野 宏



タウンモビリティマップ

◎天神、中洲・川端、博多

今後の取り組みに期待をしながら

03

ときめきフェスタ

◎開催日時／11月17日[日]
◎開催場所／福岡市役所前イベント広場

担当者感想

今年度でこのイベントは終了いたしました。今後、かたちを変えて新たな枠組みで開催されるそうです。そのときは、もっと楽しいイベントにできることを期待します。

担当者代表 水野 宏

ユニバーサルキャンプの記録パネル展示、タウンモビリティマップの掲示と配布を行いました。

コーヒーの薫りの中で、 デザイン談義

さまざまな分野の研究者や実践者を招き、旨いコーヒーを飲みながら講演や議論を行う「デザイン・カフェ」。社会が抱える様々な問題や福岡の隠れた歴史、景観の魅力やデザインなどについて、参加者からも活発に意見が飛び出す議論の場となっています。プロのいれるコーヒーも好評で、これまで興味深いテーマで5回実施しました。

担当者感想

まちづくりから福岡城などの歴史や森林資源まで、幅広い分野について身近にお話を聞くことができる貴重な機会でした。担当者でありながら、参加者より詳しい質問が多くなることも。毎回、自家焙煎の小山さんとテーマに沿った豆を選定し、スタート前に薫り高いコーヒーを入れて頂いています。

担当者代表 照井善明



【講師】

- 第3回／6月25日
佐藤南海男氏
テーマ「オールドタウンのコミュニティデザインを考える」
- 第4回／7月16日
木島孝之氏
テーマ「福岡城を知る」
- 第5回／9月29日
常松幹雄氏
テーマ「金印が語るもの」
- 第6回／10月14日
島田一郎氏
テーマ「デザインコンサルタントの嘆き節」
- 第7回／3月16日
杉岡世邦氏
テーマ「森の視点から環境を考える」

デザインカフェ

◎開催日時／6月25日「土」ー平成23年3月16日「土」

◎開催場所／九州大学大橋サテライト

”景観”とは何だろうか？ 歩けば、まちの魅力が見えてくる。

05

福岡景観・歴史発掘ガイドツアー（平成21年度福岡市共働事業提案制度採択）
◎開催日時／8月7日「土」ー12月12日「日」
◎開催場所／福岡城跡、箱崎地区、姪浜地区、冷泉・御供所地区、天神地区

担当者感想

できました。実施地区は、福岡城跡を出発点に、唐津街道の東西の宿場町である箱崎、姪浜を盛り込み、古くから栄えた博多部のもとも歴史的名エリアである御供所・冷泉、福岡城の城下町としての痕跡を残しながら西日本の核として発展した天神という五つのエリアを選定。延べ12日間の開催で、合計496名の参加をいただきました。

美しい景観を実現するためには、何が美しいのかという価値観を共有する必要があります。その価値観を共有するために、デザイナーの視点からガイドするツアーを実施しました。実施にあたっては、福岡市協働事業提案制度を活用して都市景観室と協働で行ないました。また、解説については歴史という視点も重視して、各地区で活動しているまちづくり団体やボランティアガイドの団体にも協力いた

「まちづくりへのきっかけ作りになれば」との思いで始めたガイドツアー。実施にあたって、各地域で地道にまちづくりを行なっている団体の皆さんに、絶大なご協力をいただきました。そのまちを強く愛する方々にしか出来ないご案内により、幅と深みのあるガイドツアーを行なうことができました。改めて御礼申し上げます。また、参加してくださった市民の方々からも、暖かい励ましやねぎらいの言葉をい

ただ、私たちがめざしたことの一端がかなえられたという手ごたえを感じました。しかし、まだ、出発点によりやく立てただけです。多くの意見をくださったことが、今後の改良への大きな助言となります。これから、市民の景観づくりへの参画の意欲が沸き起こることを願ってやみません。

担当者代表 水野 宏



【開催日】

- 福岡城跡: 8月 7日(土)、8日(日)、21日(土)、22日(日)
- 箱崎地区: 9月25日(土)、26日(日)
- 姪浜地区: 10月23日(土)、24日(日)
- 冷泉・御供所地区: 11月20日(土)、21日(日)
- 天神地区: 12月11日(土)、12日(日)

【講師】

- デザインリーグ会員
- 福岡城跡・鴻臚館跡: 福岡市教育委員会
- 箱崎地区: 箱崎まちづくり協議会
- 姪浜地区: 唐津街道姪浜まちづくり協議会
- 冷泉・御供所地区: 福岡市観光案内ボランティア
- 天神地区: We Love天神協議会
- 福岡歴史探訪ガイド町歩き実行委員会

「みんなに優しい商店街」を作ろう！ 熱意いっぱいに取り組むこどもたち

06

小学校出前授業「スクールキャラバン2010」

◎開催日時／11月29日〔月〕
◎開催場所／福岡市立南当仁小学校

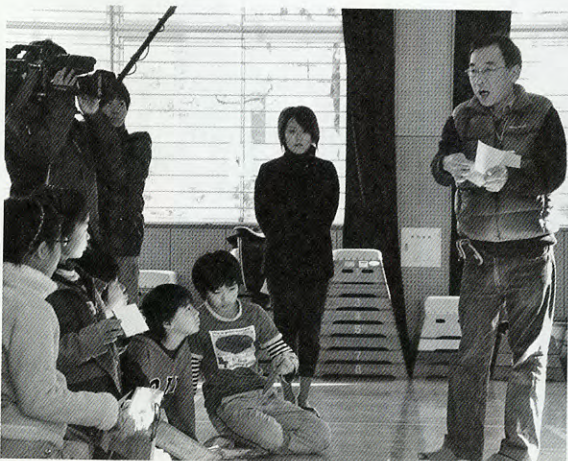
・小学校出前授業「スクールキャラバン」は、社会を学ぶ横断的、総合的な学習として、機能、実用性といった目的を表現するデザインを学び、子どもたちのデザインマインド（創造的価値を育成することや、自己表現、コミュニケーション、プレゼンテーション能力などを育成することを目的としています）。

2010年は、福岡市立南当仁小学校5年生3クラス（103名）を対象とし、小学校地域の商店街をモデルに「みんなに優しい商店街」（ユニバーサルデザイン）をテーマに合同授業を行いました。

授業の前にあらかじめ、建築・環境・店舗の「KIDSデザイナー」を募集。こどもたちは募集要項にある「建築」「環境」「店舗」の説明を読み、希望のデザイン領域を選択します。よって、授業はクラス単位ではなく、3つのデザインチームで行われます。

まず、授業の前に、現地調査の課題を出します。「みんなに優しい」のみんなとは誰か、そして、そのみんなが安全に安心して買物ができ、楽しく集える商店街とは何か、を念頭にモデルとなる地域の商店街に行き、問題点を抽出、計画を練ります。

授業当日は、各デザイン領域ごとのチームに分かれデザインに取りかかります。環境チームはまず、商店街は「いつもニコニコ商店街」、通りは「にこにこドキドキ通り」「かがやき通り」という風に、商店街・通り・広場にテーマにちなんだ名称を考案。そしてその名称を表現し、かつユニバーサルな機能を持たせたデザインを検討していきました。ある通りは全体を芝生にし、一部をタイル貼とすることで車椅子や



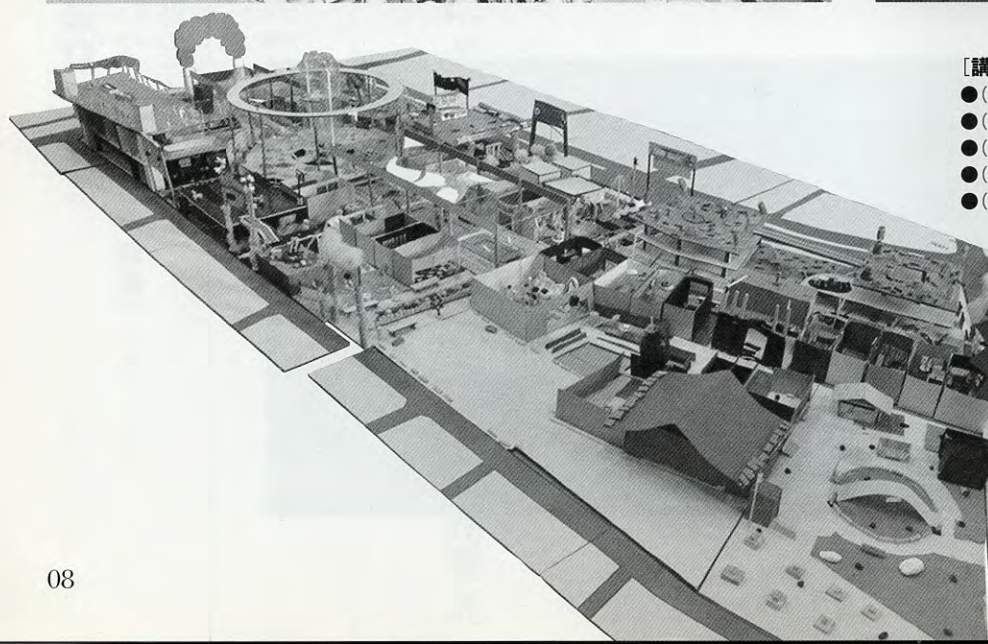
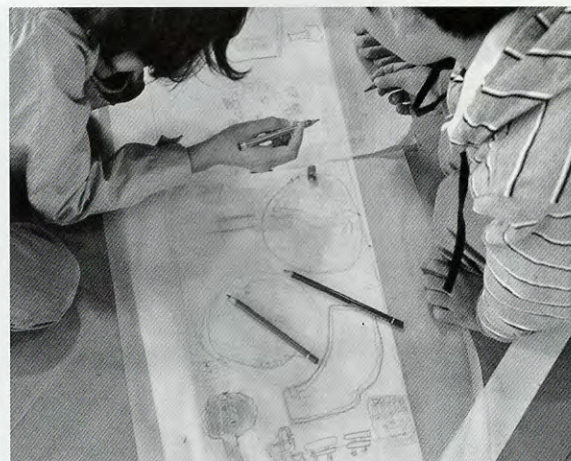
ベビーカーが通りやすいように設計、さらに点字ブロックも設置。その点字ブロックはグループ間で話し合つて位置を確認し、その結果、通りの交差点では点字ブロックが見事に連結されました。広場には足湯を設け、車椅子からでも入りやすいように工夫もなされました。建築チームは、空地の開発に挑戦。予め物件は与えられず、何が必要かをまず自分たちで考え、他のグループと協議し計画していきました。「他の小学校の人たちと交流できる場所があるよね」「1階で子どもたちが遊べて、2階に大人たちが集えるセンターをつくらう」など、夢のあるプランが次々と生まれました。店舗チームは各自で店の業態を決め、一人店舗の設計に取り組み、車椅子でも利用しやすい通路幅や入口などに留意してデザインを工夫しました。

計画から、デザイン、模型(1/100)まで約5時間、驚きの集中力で仕上げる子どもたち。最後に各グループ、各自が模型を持ち寄ると、みんなに優しい「いつもミミヨ商店街」が完成しました。

担当者感想

授業のはじめは、準備万端やる気満々な子ども、「デザインって何?」「むずかしそう」と不安げなことも、「図画工作嫌い」というノリがないことも...その表情はさまざま。しかし、休み時間も惜しんで5時間の長時間に渡る授業を終えると、彼らの顔は皆、「誇らしげ」で清々しい顔に変わります。それは、各々が全身で考え、挑み、そして完成させた達成感からくるもので、さらに、こどもたち全員が協力し、みんなできりあげたことに喜びを感じたのではないかと思います。社会にはひとりの力とみんなの力の双方が不可欠であるということを学ぶ姿に、私たち講師もあらためて気づかされる1日です。

担当者代表 中牟田 麻弥



【講師】

- (社)日本ディスプレイデザイン協会九州支部(DDA)
- (社)日本商環境設計家協会九州支部(JCD)
- (社)日本グラフィックデザイナー協会福岡地区(JAGDA)
- (社)日本サインデザイン協会九州地区(SDA)
- (社)日本建築家協会九州支部福岡会(JIA) 他

第41回博報賞
教育活性化部門
受賞

文部科学大臣
奨励賞
受賞

デザインの現場へ飛び込もう！

07

デザインインターンシップ2010

◎開催日時／《セミナー》6月3日〔月〕《インターンシップ期間》8月1-9月
◎開催会場／《セミナー》福岡市立中央市民センターホール

EDUでは2003年度より、デザイナーを志す大学生・専門生の学生を対象に、デザインの現場を体験するための「デザインインターンシップ」を行っています。

目的は学生の今後の進路に役立てるとともに、デザイン業界の人材育成・確保に資することです。インターンシップに先立ち、6月にセミナーを行い、手続きの説明、参加の心得などを伝えます。また、さまざまなデザイン分野の現場の話しを第一線で活躍されているデザイナー4名に講演いただきました。

◎セミナー参加者／450名

◎受入れ企業／26社

◎インターンシップ申込者／104名

◎インターンシップ採用者／71名

アンケートより（学生）

●職場の方がみなさん仕事に情熱を持って働いてらっしゃるというのがよく伝わってよい刺激になった。アドバイスもしていただき、自分の能力を高めることができてとてもよかったと思う。みなさんを見てるとやはり私もクリエイティブ職につきたいと強く感じた。（大学3年生 女子）

●就職活動の一環として参加しました。就職に直接は繋がりませんが、業界内の方とかかわる機会があまりなかったのも参考になる話をきくことができました。また、自分の技術がどこまで通用するのか、どこが足りないのかを確認できました。自分がやりたい事が分かっている学生であれば、同じ分野の事務所にお世話になるのはとても刺激を

受けるので去年のうちに体験しておきたかったなと思いました。（専門学校2年生 女子）

アンケートより（企業）

●今回専門学校1年生を2名受入れました。二人とも感じが良く、まじめに取り組んでくれました。ただ、1年生の場合パソコンの技能が無い（高校を卒業して4-5ヶ月程度）のでパソコン教室になってしまふ場面もあり、パソコン研修会ではないので、ある程度のパソコン技術は必要ではないかと感じます。その他、服装や礼儀・時間厳守等はきちんと出来ていて良かったです。

●受入れ先を増やした方が良いと思う。会社だけではなく、個人で良い仕事されてるところにインターンシップのメリットをアピールし、受入れてもらいたい。

担当者感想

セミナーではデザイン業界を目指す学生達の壇上のデザイナーへの熱い眼差しに、刺激を受けます。

担当者代表 岡 真由子

【セミナー講師】

presentation 1

「グラフィックデザインの現場」

●武永茂久／武永デザイン事務所

presentation 2

「建築・家具デザインの現場」

●水野宏／株式会社水野宏建築事務所

presentation 3

「総合プロデュースとしてのデザインの現場」

●松山真介／株式会社アポロ計画 代表取締役

presentation 4

「パブリックデザインの現場」

●定村俊満／株式会社ジーエータップ

代表取締役



中国デザインビジネスの今

08

第7回アジアデザインビジネスセミナー

◎開催日時／平成23年2月15日「火」
◎開催会場／九州大学大橋サテライト2階

担当者感想

鶴飼先生のお話によると、日本と中国はプロジェクトの進め方に大きな違いがあるという。

中国は提案に対してその場で即ジャッジ、そしてこの繰り返しで、どんな仕事も進行して行くので早い。日本の場合は担当者が上にお伺いを立て、修正をし確認しながら合意を得て次の段階に進む為に、構想の段階で時間がかかってしまうという。また、トップが変わると計画していたものが平気で設計変更になると思うが、システムの違いの理解が必要なのようだ。

担当者代表 森重 正治

【講師】
●程 建新 氏
華東理工大学芸術設計・メディア学院院長、芸術委員会委員長、芸術設計学修士指導教官教育研究組組長、「工業設計」講座教授、博士指導教
●鶴飼 哲矢 氏
九州大学芸術工学研究院准教授、建築家、東京大学大学院、ロンドンAAスクール出身。丹下健三都市建築設計研究所、文化庁派遣芸術家在外派遣研修員、東京大学助教を経て2009年8月から九州大学へ。



「アジアデザインビジネスセミナー」は、九州大学、福岡アジアデザイン交流協会、そしてデザインリレーの共同で毎年開催しています。東アジアの急速な経済発展に伴いグローバル化の道を辿っているデザインビジネス。本セミナーでは毎回、アジアのデザインビジネスの第一線にあるデザイナーを招聘して、アジアのデザインビジネスの今を語り、交流を深め、福岡のデザインビジネスのグローバル化を促進しています。またこのセミナーが触媒となつて、アジアのデザイナー同士の交流も広がりを見せています。

今年度は、「中国デザインの今」と題し、中国工業設計協会の程建新先生をお招きして「中国におけるデザインビジネスの現状と展望」について講演していただきました。GDPで日本を追い抜き、世界第2位の経済大国になった中国。その発展の裏でデザイ

”誰にでもやさしいまち”をめざして

09

「ユニバーサルシティ福岡」の実現に向けた準備 業務委託

◎開催日時／平成23年2月13日

担当者感想

高島福岡市長の意向により「福岡市を誰にでもやさしいまち」にするための検討作業でした。新たなユニバーサルデザインのあり方を提案できたと考えます。

担当者代表 定村 俊満

●検討委員／平井康之(九州大学)／清須美匡洋(九州大学)／細山雅一(細山UDユニット)／廣瀬正人(FDL)／定村俊満(FDL)／水野宏(FDL)／照井善明(FDL)／佐藤俊郎(FDL)／加瀬仁人(FDL)
●行政出席者／藤本広一(福岡市総務企画局企画調整部)／名川学(福岡市総務企画局企画調整部)／峯田太史(福岡市保健福祉局総務部計画課)／宮崎博文(福岡市保健福祉局総務部計画課)山本武史(福岡市保健福祉局総務部計画課)
●ゲスト／棕本敏行
●オブザーバー／Nermin el-ocla(九州大学)／松尾紘子(FDL)／小出、上水(株式会社きらきら／障がい児者支援サービス)
●作業部会／株式会社ジーエータップ+株式会社環境デザイン機構(岡大輔)／山田貴史／張彦芳／亀井翔太)

スポーツとまちづくりの「いい関係」。

10

福岡市デザイン啓発・広報事業

◎開催日時／《第1回》平成23年3月10日「木」《第2回》3月22日「火」
◎開催会場／九州大学大橋サテライト

◎第1回

Jリーグのアビスパ福岡から大塚社長と下田専務をお招きして開催しました。

日本代表を頂点にJ1、J2と続くサッカー界。華やかな活動は充実した下部組織と熱心なファンがあつてこそと思えます。トップダウン的な経営戦略視点とボトムアップ的な草の根運動。ふたつの視点をベースに、球団内やファンとのコミュニケーションの工夫はもちろん、サッカーを通じての地域貢献活動など幾多ある実例をもとに、アビスパの理念やそれに基づく取り組みを語っていただきました。

大局的な戦略面からの取り組みを大塚社長から、地域貢献活動については下田専務から、映像を交えながら分りやすく提示していただきました。特に下田専務が10年を取り組まれている子供向けやお年寄り向けのサッカー教室、また視覚障害者と健全者をつなぐブラインドサッカーなどの取り組みには多くの共感を得ていました。

さらに、アビスパを中心に市民レベルでのスポーツ文化振興を目的としたスポーツ情報誌「INSIDE」の編集長・中倉氏を加え、第三者目線から見た福岡の持つ潜在力とアビスパ福岡とのギャップなど、おおいに考えさせられる提言もいただきました。

◎第2回

企業の広告塔から地域密着型へ移行を計っているプロ野球業界。中長期的にみるとそのほうが企業として益するところが多いと思われるものの、うまく

担当者感想

第1回目ではボール1個があれば、純度が高いコミュニケーションが多岐にわたって計れるサッカーの素晴らしさはもちろんですが、その魅力は二方向だけでなく双方の関係で創りあげていくべきものと強く感じました。また、熱いスポーツの話をデザインの視点から捉え直してうまくセミナーをリードしていただいたコーディネーター・伊藤氏の手腕もあり、表題に掲げた内容を十分に咀嚼する高度なセミナーになったと思います。

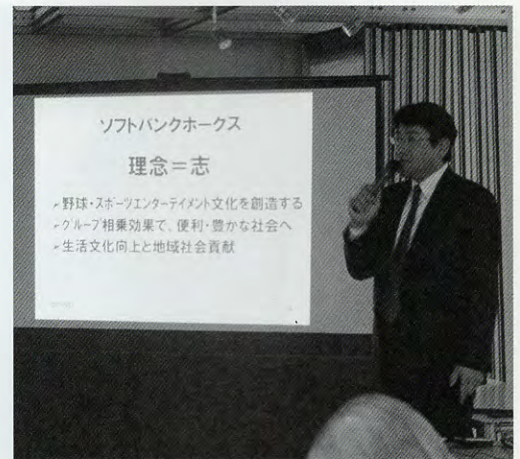
第2回目では、人づくり、会社づくり、地域づくりのなかか

らさらにレベルアップした人づくりがおこなわれ、より成熟したコミュニケーションを形作っていくことで、企業も潤い、地域も潤い、そこで暮らす人々も潤おう。一見関係のないように思えるホークスの活動が実に理にかなった戦略眼のもと行なわれていることに感嘆するとともに、社内外的に難しい試みを円滑に進められているおふたりの情熱に深く刺激を受けるセミナーとなりました。

担当者代表 武永茂久



進まない球団も多いように感じられます。そのなか
にあつて、着実に成果をあげているソフトバンクホー
クス。第2回では、ホークスを軸とした地域づくりを
進めるキーマンおふたりにご登壇いただきました。
感動の共有が人を変え、企業を変え、いずれは地域
社会まで変えていくプロセスを、未来ビジョンを含め
示していただきました。球団を含めたエンターテイ
メント事業展開のみならず、スポーツ観光を軸とし
たまちづくりに至るまで、地域コミュニケーションの
あり方なども含め、根底にある思想や、それを形に
していく上での工夫を実例を交えながらお話しし
ていただきました。



[講師]

第1回

●バネラー

大塚 唯史氏 (アビスパ福岡(株)代表取締役社長)

下田 功氏 (アビスパ福岡(株)代表取締役専務)

中倉 一志氏 (スポーツライター/INSIDE編集長)

●コーディネーター

伊藤 敬生氏 (福岡アートディレクターズクラブ代表)

第2回

●コミュニケーター

田中 正則氏 (福岡ソフトバンクホークスマーケティング(株)・
ドーム運営本部王貞治ベースボールミュージアム運営部長・
福岡西部副都心Eまちづくり協議会 副会長)

●ゲスト

亀井 敏裕氏 (パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社
都市・交通部 総合計画グループ 技術課長)

都市景観賞の審査や表彰を サポート運営。

11

平成22年度福岡市都市景観賞運営 その他

- ◎開催日時／4月～平成23年3月
- ◎開催会場／福岡市役所講堂 他

プロポーザルによって正式に受託決定の後の最初の我々の
作業は「単抜設計書」に基づく見積の作成です。
「」初めての公共事業の運営受託にあつて、事務局共々
少し緊張しながら絶対に赤字にならないように頑
張って見積りました。(デザイナーの皆さん単抜き
設計書「」存知ですか?)

言われた事だけコツコツやる単なる受託に飽き足ら
ずに「FD」が景観賞に「言申す!」が本当の目的「景
観賞とFD」懇話会「まで開いてしまおうのがFD」の
真骨頂である所謂「いらん世話」ですね(笑)

7月の懇話会出席者の「」のうるさ型の皆々様あ
りがとうございました。

審査作品の現地審査にあつては、段取り、バスコー
スの計画、ガイド、添乗員などの旅行代理店業をと

ても人柄の良い運転手さんのおかげで難なくこなし
いよいよ12月の表彰式 講演会の運営に臨みました。
15階の講堂の照明スペックについて市役所職員の誰
よりも詳しくなり、音響(BG)操作もマスター。
素敵な表彰式 講演会の運営演出(デザイン)が出
来ました。

担当者感想

市役所の備品に輝度の高い大型プロジェクターが無い事が
判明しました。FDでプロジェクターを持てば照明音響のノ
ウハウも加わって、他の部署から講堂運営の委託がくるか
もしれませんね?

「いらん世話」ですが市役所施設は宝の持ち腐れかな?職
員の皆さん!講堂の立派な調整室に入つた事ありますか?

担当者代表 廣瀬 正人



釜山で企画展を実現させました。

◎テーマ／福岡市新・緑の基本計画と福岡市の景観

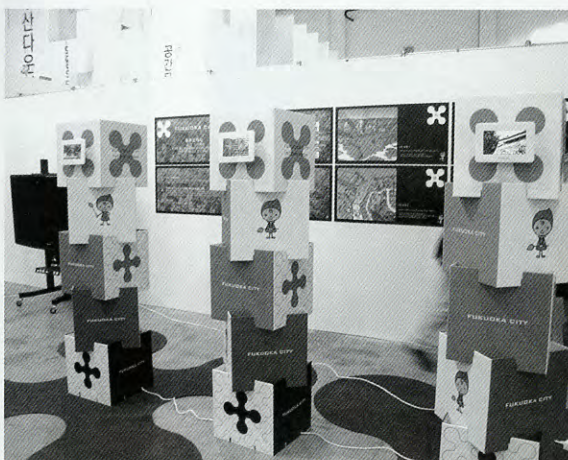
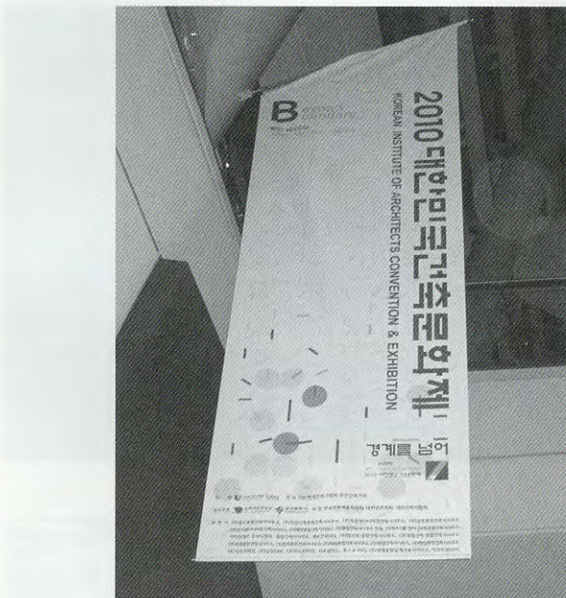
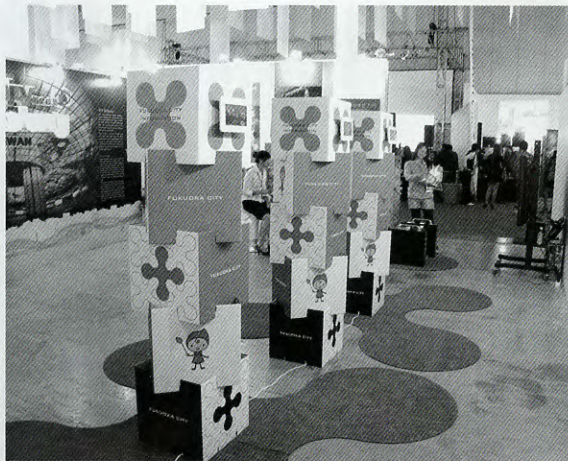
昨年にひきつづき、釜山市の姉妹都市である福岡市から釜山国際建築文化展、友好都市展示の依頼を受けて、6月より企画を開始しました。昨年の展示は福岡市の都市景観をベースにした展示でしたが、今年は環境に配慮した都市づくりをベースに展示計画を行いました。展示内容の核は、福岡市の新・緑の基本計画に決定。福岡市の新・緑の基本計画とは、「都市緑地法」及び「福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例」に基づく「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」というもので、今後の福岡市の緑地帯の保存や、緑化計画の方向性を現したものです。実際の展示ではパネル展示・インタラクティブシステム・映像コンテンツを利用、福岡市景観や歴史・文化について周知しました。

日本語から韓国語への翻訳やパネルデザイン制作、映像タワーのデザイン制作を日本で行い、韓国側にはシステム追加や機器のレンタルをお願いし、トータルプロデュースをEDLで実施。開催日前日の9月28日に釜山市BEXCO会場にて搬入・設置を行いました。ソウルSKaywon School of Art & Designのキム先生・シム先生には、レンタル機材の手配や設置システムの構築等、今年も大変お世話になりました。

担当者感想

日本から大荷物を運んだり、韓国側との打合せが大変でした。予算も厳しく、設営場所もなかなか定まらず、時間に終わる中の作業でしたが、緊急対応していた頂いた皆様や、急遽、設営にお手伝い頂いた梅本さん、大変助かりました。

担当者代表 児島 正明



釜山国際建築文化展 福岡市姉妹都市ブース展示
 ◎開催日時／9月29日「水」ー10月3日「日」(5日間)
 ◎開催会場／韓国 釜山市BEXCO(コンベンションセンター)

飲んで、笑って。

福岡のデザイン界上げての“望年会”

13

第13回FUKUOKAデザイン界合同大望年会2010

◎開催日時／12月15日「水」
◎開催会場／アクア博多11Fグラナダスイート

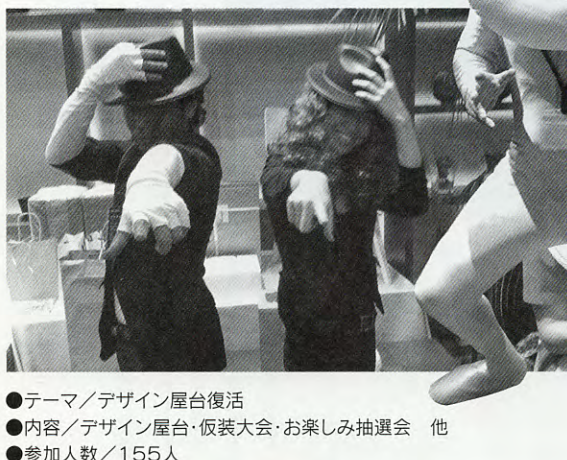
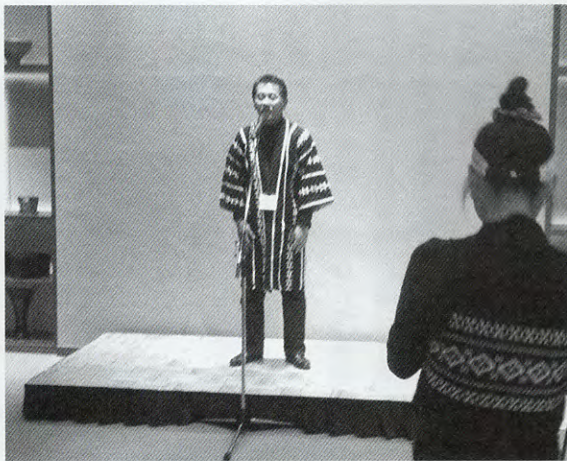
毎年恒例、デザイン界を上げての望年会。主催・デザイン都市を創る会 共催・福岡県産業デザイン協議会／NPO法人FUKUOKAデザインリーグのもと、12月15日（水）に福岡市博多区中洲のアクア博多11Fグラナダスイートにて開催しました。

昨年は会場スペースの都合で出来なかったデザイン屋台を復活させる事を念頭に、会場探しに苦慮！デザイン屋台には12組の団体や個人出展者が参加、大いに会場を演出していただきました。デザイン屋台大賞はSDA屋台がジャンケンの決勝戦にてIAGDA屋台を破り、2連覇!!多くのデザイナー達も工夫をこらした仮装で楽しく、愉快に、話に花を咲かせた事でしょう。メーカー様や地元企業様の皆様にはプレゼント協賛を頂き、お楽しみ抽選会も歓喜とため息のもと、大いに盛り上がりました。協賛を頂いた企業の皆様へはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。また、今年もチャリティー募金のご協力頂いた、参加者の皆さまにも大変感謝致します。ありがとうございます。（チャリティー金¥10,848）デザイン都市を創る会より、チャリティー金を含め、東日本大震災復興資金へ50,000円募金致しました。

担当者感想

会場はおしゃれでステキでした。コストと食事・会場のバランスが毎年の課題です。もともと手づくり感あふれる望年会を、今後も考えていきたいと思えます。実行委員の皆様、お疲れさまでした。

担当者代表 児島正明



- テーマ／デザイン屋台復活
- 内容／デザイン屋台・仮装大会・お楽しみ抽選会 他
- 参加人数／155人

釜山デザインセンター(DCB)視察。

14

釜山デザインセンター視察

◎開催日時／平成23年2月7日〔月〕～8日〔火〕
◎開催会場／韓国・釜山デザインセンター

担当者感想

2011年2月7日～8日にかけて、FDLの総勢10名が視察団として釜山デザインセンターを訪ねました。センターは2007年に完成したもので、地下3階、地上8階、延床面積23,435㎡を誇るすばらしい施設です。

従来、日本でデザインセンターと名乗る施設はテナントビルが主体でしたが、このDCBは、中小企業への

デザイン支援という明確な使命を持っており、デザイナーとのマッチングや、高度なデザイン教育、啓発事業、展示事業等、活動は多岐に渡り、名実ともに釜山のデザイン活動の中心となっています。

当初、FDLも「はじめて」ではなく、デザイン活動を中心とし、その結果が、施設となって結実する、と考えていましたが、やはり、何らかの中心となる、「場」の必要性も感じる視察でした。今後、DCBとFDLは提携を交わし、様々な分野で交流を深めて行く予定です。

担当者代表 佐藤俊郎



デザイン都市・バルセロナでの交流。

15

バルセロナ経済交流可能性調査ミッション

◎開催日時／平成23年3月20日〔日〕～25日〔月〕
◎場所／スペイン カタルーニャ地方 バルセロナ

◎視察目的

福岡市経済の国際化を推進し、企業の海外展開や誘致を図るため、国際地域ベンチマーク協議会のネットワークを活用しバルセロナ市と経済交流を推進、また具体的経済交流展開を目指して関係機関及び団体による可能性事前調査。

◎参加者

藤田理恵子(FUKUOKAデザインリーグ)／田中豊(社団法人福岡貿易会アジアビジネスアドバイザー)／吉松則文(財団法人九州先端科学技術研究所研究員)／天本俊明(福岡市経済振興

局国際経済部企業誘致課 課長／藤島美哉(福岡市経済振興局国際経済部国際経済課 係長)／平原顕治(福岡市経済振興局国際経済部国際経済課 課員) 以上6名

3月21日に、全員で福岡市との窓口となった企業と起業の成長支援センターであるBarcelonaActivaを訪問。バルセロナ市が取り組んでいるきたイノベーション地区Barcelona@22などについての説明を受けました。3月23日には今回FDLとして最も関連性のあるFAD(装飾美術振興会)を訪問。またMATER(素材センター)を見学、



様々な素材研究について説明を受けました。MATERの機能の一つとして、さまざまな素材をストックすることによる「素材のライブラリー機能」があります。最終的には、素材を市場に送り出すことが目的であるとのこと。そのため、企業からの相談に対して素材を提供するだけでなく、テクノロジーに関しての問題やイノベーションにあたっての

活用していただくために 操作・機能を充実させました。

FDLのイベント告知を中心にプロジェクトを紹介しています。ユニバーサルキャンやインターンシップ事業では、必要書類などのダウンロードも行えます。

担当者感想

イベント告知をきっかけに、FDLに興味を持って、会員になって欲しいです。もと、HPを活用したいと思っています。

担当者代表 岡真由子

デザインにおける

九州・アジアの連携を目指して。

連携協議会は産学官民の連携事業を通じ、独創的、革新的な成果を生み出す「知識経済」の活性化を促進することにより、デザイン分野でのアジアの拠点化を目指すとともに、産業と文化の国際交流の発展に寄与することを目的として運営されています。22年度は国際地域ベンチマーク協議会との連携、留学生に対するインターンシップの実現、釜山デザイン

注意点などのアドバイスを行うなどのサポートをしているそうです。引き続きFADの事務所を見学後、FDLの組織及び活動についてお話しする時間をいただき、今後の交流の可能性について検討しました。交流のきっかけとしては、まずは情報交換をしていくこと、特に素材についての情報交換、市場についての興味があるということで、これから

16

ホームページの改訂

の交流展開を約束しました。その後はバルセロナ市内でのランチミーティングへ。Barcelona@22プロジェクトのCEOであるビケ氏等と共にサグラダファミリア教会の主任彫刻家である外尾悦郎氏も同席され、デザイン都市についての興味深い話を聞くことが出来ました。

担当者感想

短い滞在期間ではありましたが、今後につながる示唆に富んだ時間を過ごせたと感じています。デザイン都市としてのバルセロナには学ぶところも多いのではないのでしょうか。交流の可能性調査ミッションの結論から言えば、アクションをすれば交流は可能であると思います。FDLの次の展開に期待します。

担当者代表 藤田理恵子



17

九州アジアデザイン連携協議会

◎開催日時／随時開催
◎開催場所／九州大学大橋サテライト 他

センターとの連携等が検討されました。

●構成メンバー

◎事業連携会員／NPO FUKUOKAデザインリーグ、九州大学知的財産本部、九州大学芸術工学院、九州大学統合新領域学府ユーザー感性学専攻
◎協力・支援会員／九州経済産業局、福岡県、福岡県産業デザイン協議会、福岡市、社団法人九州経済

連合会、福岡商工会議所、日本弁理士会九州支部

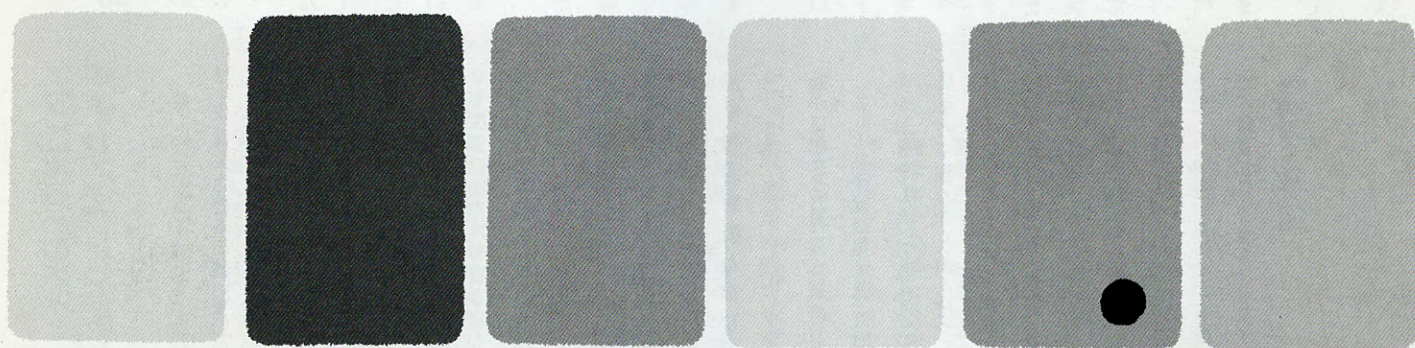
◎世話役会員／NPO FUKUOKAデザインリーグ、九州大学知的財産本部

担当者感想

協議会に参加している各組織は、それぞれの課題を抱えています。それらに参加メンバーが共有することで、個別では

解決できない新たなソリューションの方向性が見えてきます。これが当協議会の本来の役割だと思います。釜山デザインセンターとの連携等、決して派手な活動ではありませんが、着実に新たな動きがここから生まれています。

担当者代表 定村俊満



NPO FUKUOKA DESIGN LEAGUE

1-3-27 Ohashi Minami-ku Fukuoka #815-0033 JAPAN Tel.+81-92-551-0825 Fax.+81-92-405-0825 <http://www.f-design.gr.jp/>